

岐阜県地方産業教育審議会（平成30年2月22日）資料

これからの産業教育について

岐阜県教育委員会

1. 前回の会議（平成29年5月31日）における主な御意見①

1 岐阜工業高等学校における取組

- ・(航空宇宙産業に関わる人材育成を目指すという考え方について)岐阜工業高校は時代に合った学校であることを実感した。
- ・産業界や企業と学校が連携して人材育成に取り組む仕組みができている例。デザイン工学など、企業に入って役立つことに取り組んでいたし、機械なども産業界の実態を踏まえたものが使われていた。
- ・介護分野はなかなか目に見えないところがあり、それを見える化するための研究なども進んでいる。そのような研究など、福祉分野とも関連するような研究を工業高校でも進めてほしい。

2 地域産業を担う専門的職業人の育成

- ・今以上に産業界と学校が連携を密にし、情報交換する場を多く設定することが大切。産業界の求める人材と学校教育とのマッチングが必要。
- ・学校が各地の地場産業と連携し、技術者を育てていくことが大切。インターンシップなど、採用面接以外でも地元の企業を生徒に知ってもらう機会が必要であり、それによって生徒も自分に合った企業選択ができるようになる。
- ・行政の中での連携を密にし、縦割りでなく行政と教育、産業界のパイプを太め、連携を取っていけば、更なる専門的職業人の育成につながる。
- ・岐阜県では伝統的に一つの学校に単独の学科(大学科)を置く高校が多いが、他県では、学校を統合して総合実業高校に再編し、複数の学科(大学科)を置いて学科間で連携した教育を実施しているところもある。専門高校同士で連携・協力することでもよいが、6次産業化に対応した教育を実現するための方策を考えなければならない。

1. 前回の会議（平成29年5月31日）における主な御意見②

3 異文化理解、国際感覚を有した職業人としての基盤形成

- ・県内観光地に海外の観光客が訪問しているが、それらの地域が求めている人材は英語ができて接客できる人材。観光業のマネージャーやエージェントではない。
- ・高校生の育成は、生徒の卒業後の姿も見据えた中長期のビジョンに立って行うべき。単に人材が不足しているから供給するというのではなく、高校で観光を学び、それがどのような職業に結び付くのかをイメージできなければならない。

4 高度な技術・技能の習得に対応した施設設備の整備

- ・海外には、工作機械や現場の機械など、素晴らしいものがたくさんある。ソリッド設計、3次元設計を一番勉強しなければならないので、授業でも取り入れるべき。

2. 本県産業教育における成果と課題

【成果】

①各学校における先進的な取組

- ・県内3校がSPH指定
(岐阜商業、大垣桜、岐阜工業)

②産業界等の支援による充実した教育

- ・金型コンテスト等の生徒が日々の学習成果を発揮する機会
- ・地域の企業との連携による商品開発

③高い専門性を習得した生徒の育成

- ・高度な資格の取得
- ・全国レベルの表彰

【課題】

①時代の変化に対応した人材育成

- ・少子高齢化、グローバル化、科学技術の進展等への対応
- ・次期学習指導要領への対応

②地域のニーズを踏まえた人材育成

- ・県の成長産業への貢献や各地域の地場産業の振興
- ・地域の特色を生かした産業教育
- ・学校、産業界等が総がかりで行う人材育成

3-①. 今後の専門学科における「学びの領域」

- ✓ 生徒数の減少を見据えた学校配置や学校及び学科規模等。
- ✓ その中で、各地域の産業の特色や人材ニーズ等にも柔軟に対応できるような学科の在り方。
- ✓ これらを踏まえた、専門高校の学習領域及び学科の在り方について検討が必要。

【今後の専門学科における『学びの領域』】

学科名	学びの領域			
農業科	生産系	加工系	環境系	
工業科	機械系	電気通信系	建設系	地域産業系
商業科	マーケティング	会計	ビジネス情報	グローバル経済
生活産業学科	ファッション系	フード系	ヒューマンサービス系	リビング系

3-② 学科改編に伴う学科定員の弾力化

- ✓ 生徒数の減少を見据え、定員減と学科の存廃が直結する仕組みの見直し。
- ✓ 学科群の導入による生徒専門選択に配慮した定員設定の弾力化。
- ✓ 職員組織や施設・設備の状況等の教育環境を踏まえた定員設定。

【学科群や定員設定の弾力化の例】

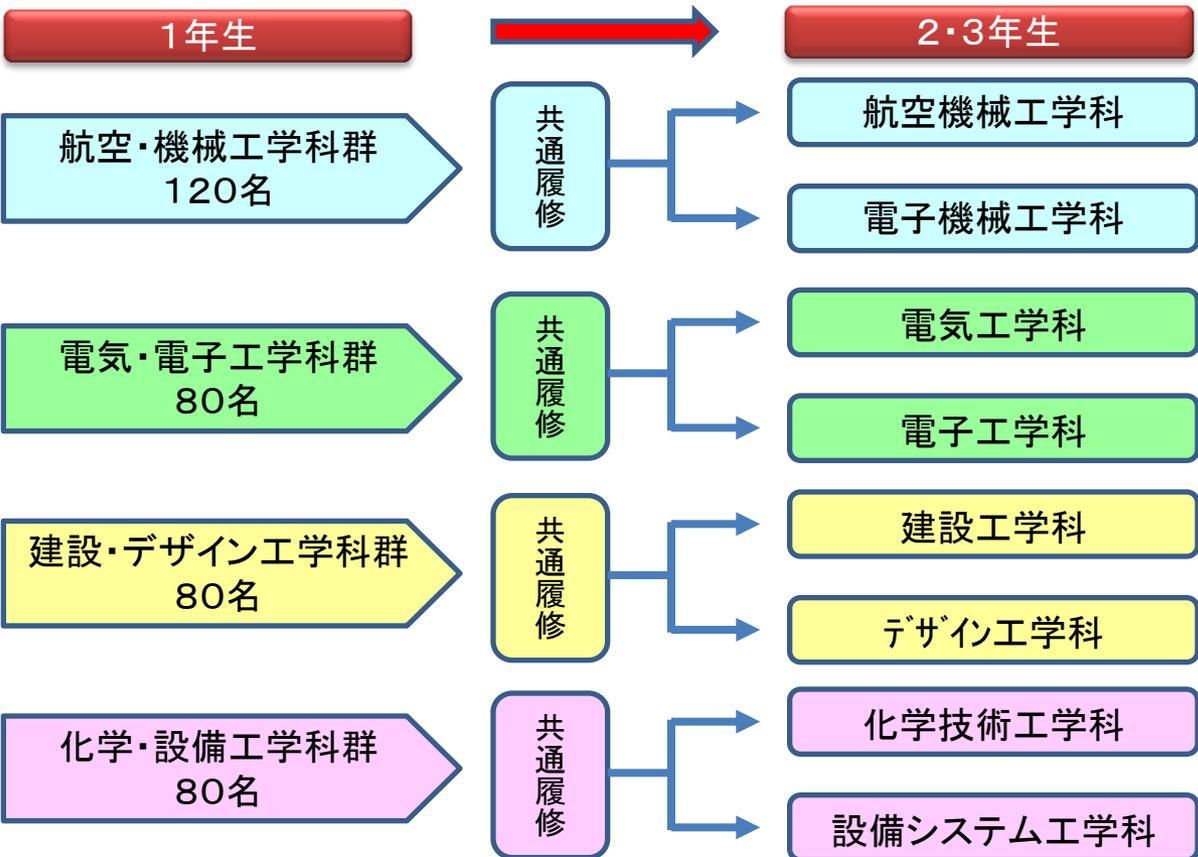
平成30年度岐阜県公立高等学校
入学者選抜

岐阜工業高等学校

- ✓ 機械科を航空機械工学科とし、これまでの機械科の学習に加えて航空宇宙産業に関する学習
- ✓ 8学科(機械、電気、電子、化学技術、建設工学、電子機械、デザイン工学、設備システム)を4学科群に再編成して、学科群ごとの募集
- ✓ 2年生から学科に所属

坂下高等学校

- ✓ 学科定員の弾力化



学科名	定員
生活文化	40 → 30
福祉	40 → 30

3-③ 各地区における専門高校の在り方に関する協議

- ✓ 各地区における産業の状況や人材ニーズ等を踏まえた専門高校の教育の在り方を協議。
- ✓ これにより、地域総がかりで将来の地域産業を担う人材育成に取り組む体制を構築。

協議題

- (1) 地域産業・社会と地域の専門高校の在り方について
- (2) 地域課題を踏まえ地域における専門高校(学科)の在り方について
- (3) 地域産業・社会において求められる人材の把握と人材育成について
- (4) 中長期インターンシップの導入について(専門的職業人育成サポート)

岐阜地区

西濃地区

中濃地区

東濃地区

飛騨地区

○産業界代表

・各地区8名：農業・工業・商業・生活産業学科に係る地域の関連企業

○県中学校長会(各地区代表校長)

- ・岐阜地区：羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣地区、羽島郡
- ・岐阜市
- ・西濃地区：大垣市、海津市、養老郡、不破郡、安八郡、揖斐郡
- ・美濃地区：関市、美濃市、郡上市
- ・可茂地区：美濃加茂市、可児市、加茂郡、可児郡
- ・東濃地区：多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市、中津川市
- ・飛騨地区：高山地区、飛騨市、下呂市



○高等学校(専門高校)

- ・岐阜地区6校：岐阜城北(生)、岐阜商業(商)、岐南工業(工)、岐阜各務野(生・商・情)、岐阜農林(農)、岐阜工業(工)
- ・西濃地区6校：揖斐(生)、大垣養老(農)、大垣商業(商・情)、大垣工業(工)、大垣桜(生)、海津明誠(商・生)
- ・中濃地区6校：郡上(農)、武義(商)、関有知(生)、加茂農林(農)、東濃実業(商・生)、可児工業(工)
- ・東濃地区7校：多治見工業(工)、瑞浪(生)、土岐商業商)、恵那農業(農)、坂下(生)、中津商業(商)、中津川工業(工)
- ・飛騨地区3校：益田清風(商)、飛騨高山(農・商・生)、高山工業(工)

《参考》岐阜県立高等学校の
活性化に関する検討

《G1:10校》 不破、郡上北、八百津、東濃、瑞浪、土岐紅陵、恵那南、坂下、高山工業、飛騨神岡
《G2: 9校》 山県、揖斐、池田、海津明誠、関有知、恵那農業、中津商業、中津川工業、吉城

3-④ ． 専門高校における地域の特色を生かした実践研究

- ✓ 地域の特色を生かし、地域のニーズを踏まえた専門教育の実現。
- ✓ 実践研究の成果は県内の他の専門高校に普及。

育成したい 人物像

- 地域に貢献できる職業人を育成 ⇒ 地域産業の創造に貢献できる人材
- 次代の産業を担う職業人を育成 ⇒ 専門的知識・技術力、課題解決思考力を備えた人材
- チーム(組織)でことにあたることのできる職業人を育成
⇒ 共通の目標に向かって、チームで取り組むことができる人材

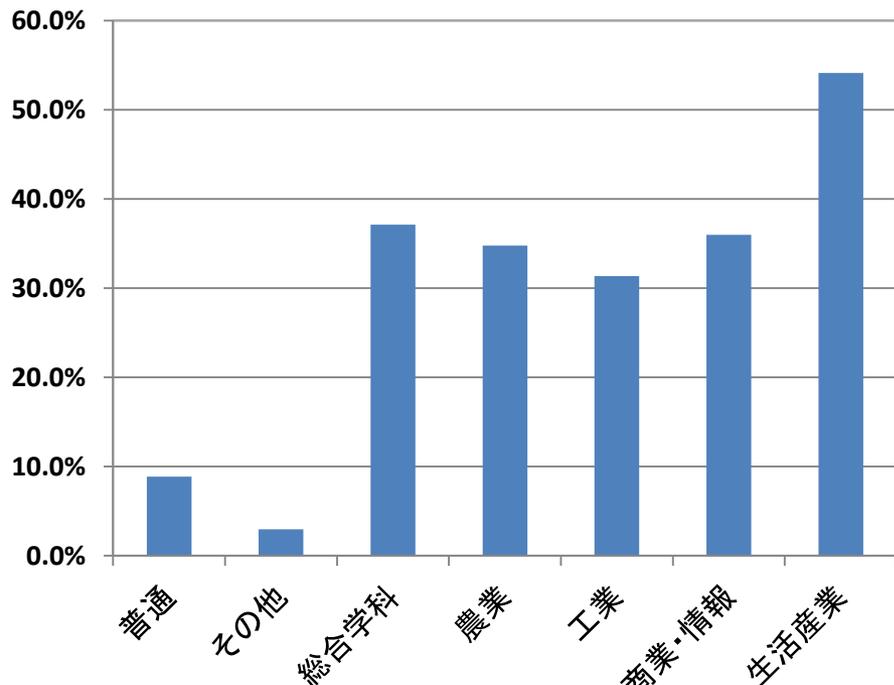
実践研究概要

- 各専門学科の特色を生かし、地域産業、特産物、観光、他学科連携等を探究しながら、以下の実践研究テーマに従って実施する。
 - ✓ 地域で活躍できる人材育成及び地域おこしにつながる取組
 - ✓ 各専門学科で学んだ知識や技術を、地域を舞台に実践する中長期インターンシップの導入(教育課程への組込等)について研究
 - ✓ 地域産業等と密着した取組を実施している学校を視察し、地域貢献力等向上に向けた取組を研究
 - ✓ 外部機関等との連携により物的・人的資源を活用した先進的及び実践的な取組を実施
 - ✓ 取組内容や研究成果を、自校ホームページに掲載し発表会等を通して、各専門高校へ普及

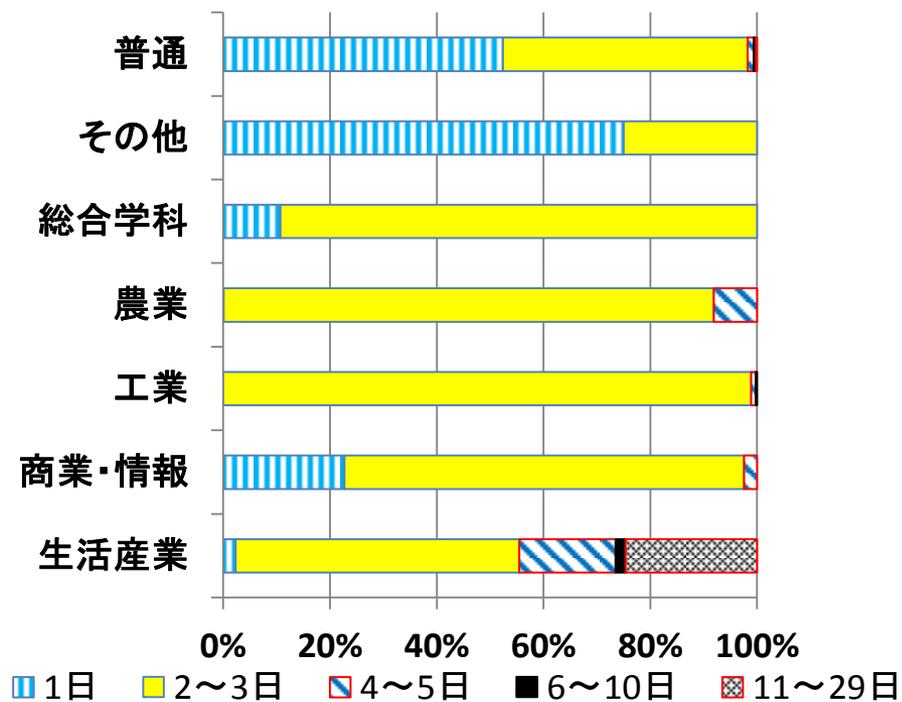
3-⑤ . 中長期的なインターンシップ^① (体験型から実践型へ) の実施

- ✓ 現在行っているインターンシップは、短期(2~3日程度)の取組が中心。
- ✓ キャリア形成及び専門的知識や技術の実践的な学習の場としてとして、中長期的なインターンシップを実施。
- ✓ 中長期的なインターンシップを実施するに当たっては、次の各点に留意。
 - ・ 学校と地域の企業との連携体制の構築
 - ・ 各学校の教育課程への位置付け
 - ・ 地域産業を担う一員としての資質を育む教育とする視点(地域の産業や企業を知る機会等)

県立高校の学科別インターンシップ実施割合
(H27年度全日制)



県立高校の学科別インターンシップ実施状況
(H27年度全日制)



出典: 岐阜県教育委員会 H27インターンシップの実施状況等調査

3-⑥. 国際感覚を有した職業人の育成

- ✓ 専門高校の生徒に国際的視野に立った職業観や言語能力等を養うため、専門高校から募集・選抜した意欲のある生徒を対象に海外研修プログラム(短期)の実施を検討。
- ✓ そのために、オーストラリアにおける州立職業訓練専門学校(TAFE)を念頭に、まずは当該海外研修プログラム(短期)の実現に向けた調査研究を実施。(オーストラリアの学校の交流実績、時差等を考慮)
- ✓ 英語以外の外国語科目の開設や多様な外国語の学習機会を設けること等について検討。

TAFE クイーンズランド ブリズベン (サウスバンク・インスティテュートオブテクノロジー) TAFE Queensland Brisbane (Southbank Institute of Technology)

コース

- 【農業関連】 園芸、草花栽培、芝生管理 等
- 【工業関連】 デジタルデザイン、インテリアデザイン、ソフトウェア開発、土木工学 等
- 【商業関連】 マーケティング、企業会計、中小企業管理 等
- 【生活産業】 保育、介護・福祉 等

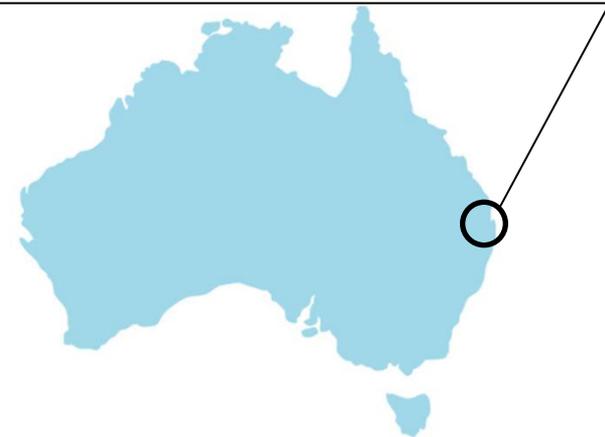
平成14年1月クイーンズランド州教育大臣と岐阜県知事とが面談し、ICTを活用した教育交流推進基本合意

TAFEクイーンズランドブリズベン

○オーストラリアクイーンズランド州において、3つのキャンパスを有する教育機関。(日本人比率15%)

○400以上の教育プログラムを開講し、職業訓練校としてオーストラリア全土で注目を集めている。

○ブリズベン
はクイーンズランド州の州都。オーストラリアの各都市の中でも、一番街の発展が早く、治安も安定。



《多言語対応によるグローバル人材育成》

県内企業の海外法人所在国の割合が高い国は、中国、米国、タイ、ベトナム等であり、英語以外の第2言語に対応していくことがグローバル人材育成につながることはいうまでもない。そのため、選択科目の設置及び大学等と連携しながら多様な言語の学習機会をどのように設けていくかを検討する必要がある。

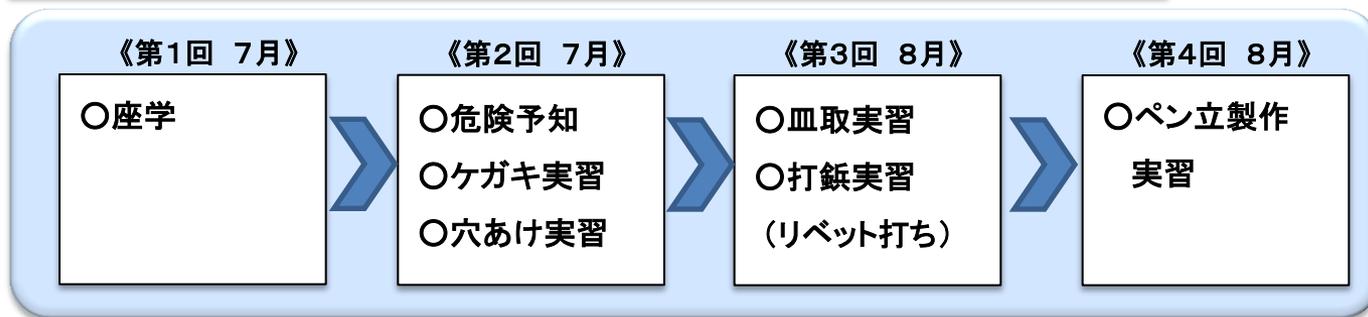
3-⑦. 職業教育に必要な施設設備の整備

- ✓ 各専門学科の特性を踏まえた基礎的かつ必須の施設・設備の整備。老朽化、安全と衛生面への配慮。
- ✓ 各地域の産業の特色や人材ニーズ等に応じた、メリハリを付けた施設・設備の整備。また、このような特別な施設設備を県内の専門高校で共同利用する仕組みの構築。

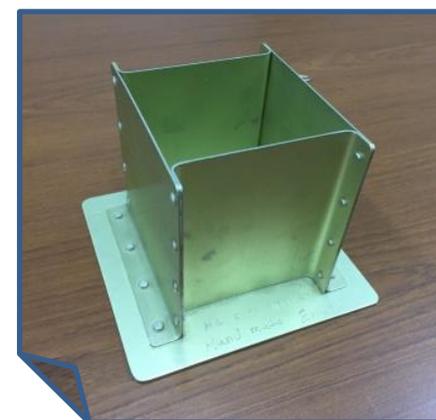
【モノづくり教育プラザの整備・活用】

実習段階	航空機製造の基礎・基本的内容 (主に1～2年生)	実機を用いた応用的内容 (主に2～3年生)
目標人材像	基本的な金属加工や、航空機の簡単な部品製作や組み立て、試験ができる。	航空機製造に興味をもち、機体部品等の高度な設計・製造ができる。
モノづくり教育プラザ	1号館	2号館 (平成30年度完成予定)
年間活用時間	○航空機製造技術体験研修 4日間4回 ○航空機製造工程に関する実習 89時間 ○学校履修科目 692時間 程度予定	検討中

「モノづくり教育プラザ」を活用した県内工業高校生による実習



岐阜工業高校18名、岐南工業高校3名、大垣工業高校4名、関商工高校5名、岐阜第一高校12名(合計42名)



ペン立製作

3-⑧. 大学や企業等の施設・設備の活用

- ✓ 大学や企業、県その他機関等の協力を得ながら外部機関の施設・整備の活用。
- ✓ これらの機関において廃棄される設備を再利用の検討。
- ✓ そのため、地区検討委員会において、専門高校と大学、企業等との連携体制の構築についても協議。

3-⑨. 多様な進路に対応した職業教育

- ✓ 上級学校への進学を希望する生徒に対応することも県立高等学校の重要な役割。
- ✓ このため、専門高校における、生徒の進路希望に対応した教育課程を検討。
- ✓ あわせて、将来の地域産業を担う人材を育成するため、次のような取組も必要。
 - ・生徒が大学等を卒業した後に地域産業の担い手となるよう意識付けを行うための取組
 - ・生徒の進学先となる各教育機関との連携による、生徒が大学等を卒業した後の進路の把握
 - ・その結果を基にした各学校におけるキャリア教育の改善

3-⑩. 専門高校出身者による義務教育教員の養成

- ✓ 義務教育段階で専門高校での学びを理解した教員が学校における学びと職業とのつながりを指導することによるキャリア教育の充実。
- ✓ これを実現するため、義務教育諸学校の教員養成課程をもつ行う大学に対して、専門高校出身者の資質・能力を適切に評価するような大学入学者選抜を検討することについて要請することなどを検討。

3-⑪. 資格取得のための取組

- ✓ 資格取得につながる学習の教育課程への位置付けや適切な実施。
- ✓ 資格取得が目的化しないよう留意。